

特別企画
シンポジウム

特定非営利活動法人 **山脈**(やまなみ)

創立15周年記念事業

わが国の精神科医療と精神障害者の処遇
過去・現在・未来

呉秀三と無名の精神障害者の100年

夜明け前

今井友樹監督作品
ドキュメンタリー／2018年／66分

まだ、精神病に有効な治療法がなかった時代、呉秀三が座敷牢(私宅監置)に幽閉された精神病患者を救おうと、実態調査を行いその実態を発表してから100年の時が経ちました。

この度、きょうされん40周年記念として製作されたドキュメンタリー映画「夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年」を上映、その後、精神障害者を取り巻く様々な立場の方々と、精神科医療と精神障害者の処遇について、過去から現在までを通じて、呉秀三の願いは叶ったのか、そして、精神障害者の真の夜明けとは何かを考えてみたいと思います。

【日時】令和2年1月31日(金)受付12時30分 開演13時00分

【会場】吉岡町文化センター／研修室 吉岡町下野田472 TEL0279-54-1161

【催事】13:00 第1部 映画「夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年」の上映

14:30 第2部 シンポジウム「わが国の精神科医療と精神障害者の処遇 過去・現在・未来」

ファシリテーター／三野 宏 治(東京福祉大学 社会福祉部 准教授)

シンポジスト／長谷川 憲 一(医療法人財団 大利根会 榛名病院院長)

浦野 喜美子(渋川保健福祉事務所 保健福祉係長)

上野 勝 征(医療法人 唯愛会 リベルタ高崎 管理者)

吉 邑 玲 子(群馬県精神障害者家族会連合会 会長)

ピアサポーター2名(群馬県精神障害者社会復帰協議会)

【定員】100名 ※事前の申込みが必要です。定員になり次第締め切ります。

【参加費】無 料

【申込み】参加ご希望の方は下記までご連絡ください。

【問合せ】特定非営利活動法人 山脈 創立15周年記念事業実行委員会

担当:笹澤 TEL 0279-54-2947 FAX 0279-54-9171 E-mail rep@npo-yamanami.jp

【主催】特定非営利活動法人山脈 【後援】吉岡町 社会福祉法人吉岡町社会福祉協議会



この事業は赤い羽根
共同募金の助成を
受けて実施します。

心を病んだ人々は、なぜ閉じ込められなければならないのか？

精神の病とは…、人間の尊厳とは…、いま突きつけられる問いかけ！



松沢病院の呉秀三胸像

呉秀三(くれしゅうぞう)は、今から百年前の時代に東京大学医学部精神科の教授として、異例の社会的な取組みを進めた先達者である。彼は精神疾患の人々が「座敷牢」に押し込まれる実情を憂い、その解決のために奔走した。その土台となった報告書『精神病患者私宅監置ノ実況及ビ其統計的觀察』を1918年に提起し、多方面へ働きかけた。それから1世紀の年月が過ぎた今、精神障害者の問題はどのようなのだろうか？

精神障害者をめぐる問題は一つの国の在り方を左右する重大なものであり、欧米でも改革が進められている。何故なら、

人口の1%プラスアルファが精神疾患を発症するという前提のもと、全ての国民が理解と対処を迫られているからである。

しかし、古い時代から現在に至るまで、精神病は誤解と偏見、差別の対象となり、この病を持つ人々と家族は苦しみと犠牲を強いられている。2017年12月の「寝屋川市監禁死亡事件」、2018年4月の「兵庫県三田市監禁事件」の報道は、多くの人々に衝撃を与えた。しかし、このような事例はまだ少なからず存在すると関係者は指摘する。こうしたタイミングで、この課題に一貫して取り組んできた精神医療保健の専門家組織である公益財団法人 日本精神衛生会と、障害者福祉の土台を支えて40周年を迎える きょうされん(旧称:共同作業所全国連絡会)が提携して製作したのが本作である。

長編第1作『鳥の道を越えて』で高い評価を得た今井友樹監督(工房ギャレット代表)が、先輩である小原信之カメラマン(民俗文化映像研究所代表)とタッグを組み、2003年の記録映画の最優秀作として注目を集めた夜間中学の



資料館の「拘束具」

記録映画『こんばんは』(毎日映画コンクール記録文化映画賞/文化庁映画大賞)の編集を担った古賀陽一編集マンを迎え、その『こんばんは』、重度重複障害児を育てる家族を描いたアニメ『どんぐりの家』(きょうされん20周年/山本おさむ原作・脚本)や、精神障害者の社会復帰を描く劇映画『ふるさとをください』(きょうされん30周年/脚本:ジェームス三木)で指揮をとった中橋真紀人プロデューサー(イメージ・サテライト代表)のもとでパッションとパワーを注いだ。

呉秀三研究の第一人者・岡田靖雄先生(精神科医療史研究室代表/元・松沢病院医師)、「座敷牢」問題の調査研究を続ける橋本明先生(愛知県立大学教授)、日本の精神科医療のトップに位置する都立松沢病院の齋藤正彦院長というキー・パーソンへのインタビューを軸に構成された本作品は、これまでの100年を見つめ直し、これからの100年を考える貴重な映像的素材と言えるだろう。

作品の中に登場する資料には、現存する2冊のみの「私宅監置」報告書(1冊は岡田先生の手元に、もう1冊は国会図書館!)、呉秀三の初めての著作の初版本、家族にあて欧州から送った絵葉書(既に所在不明!?)、秘蔵されていた数枚の写真(東大医学図書館に保管)などがある。日本で初公開!呉秀三の欧州留学先での足跡——彼が1900年前後に留学・視察したベルギーとオーストリア(ウィーン大学)に残されている「自筆の署名」を求めて海外ロケを敢行し、彼の下宿アパートもカメラに収めてきた。



海外ロケ(ウィーン)

今井友樹監督作品

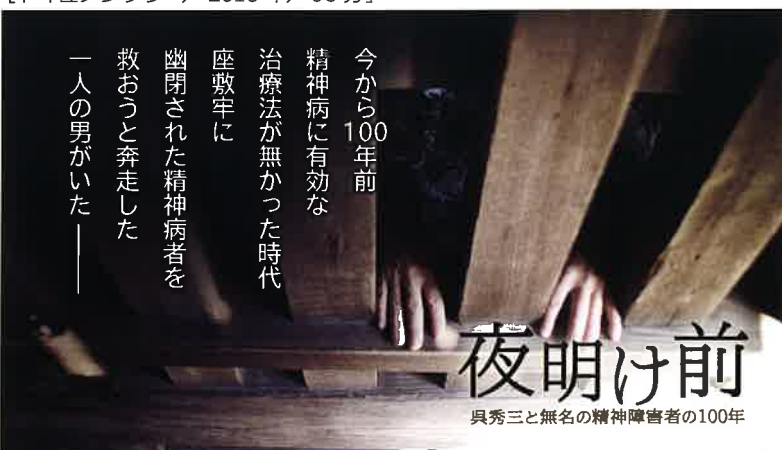
勇気をもって前へ

立教大学教授 香山リカ
いつの時代も、社会を進めるのは、ひとりの気づきとそれに触発された大勢の仲間たちです。いまも心の病を持つ人たちが正しく理解され、その人権が十分に守られているとはとても言えません。

しかし、彼らが私宅監置などのもっとひどい処遇をあたりまえに受けていた時代に、呉秀三はそのおかしさに気づき、病者に治療と福祉の光をあてようとしたのです。私も本作から多くを学び、勇気づけられました。

夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年

[ドキュメンタリー/2018年/66分]



今から100年前
精神病に有効な
治療法が無かった時代
座敷牢に
幽閉された精神病患者を
救おうと奔走した
一人の男がいた

夜明け前

呉秀三と無名の精神障害者の100年

夜明けを迎える一助として

きょうされん専務理事 藤井克徳
「呉秀三を正確に知ってほしい」一本映画企画の最大の動機です。あの「座敷牢調査」から100周年という節目の力を借りて伝えたかったのです。呉秀三の言動が現代日本にして何ら色あせることなく、そっくり今に通用しており、「この国に生まれた不幸」は、見方によっては当時よりも真に迫っているのではないのでしょうか。呉秀三の言動が名実ともに古めかしく感じられる社会をどう作っていくか、障害当事者や家族の一人ひとりが本当の夜明けをいかに実感できるか、本映画がその一助になることを願っています。

(日本精神衛生会理事)

『精神病患者私宅監置ノ実況及ビ其統計的觀察』刊行100周年記念
公益財団法人 日本精神衛生会/きょうされん40周年記念 提携事業

文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業)
独立行政法人 日本芸術文化振興会

今井友樹監督作品

夜明け前

呉秀三と無名の精神障害者の100年

[ドキュメンタリー/2018年/66分/BG]

今井友樹監督作品

ナレーション 竹下景子

企画/藤井克徳 監修/広瀬徹也
プロデューサー/中橋真紀人 撮影/小原信之
編集/古賀陽一 協力/一般社団法人 障害者映像文化研究所
バリアフリー版制作/Palabra株式会社
制作協力/株式会社 工房ギャレット
制作/記念映画制作委員会 公益財団法人 日本精神衛生会
きょうされん、有限会社 イメージ・サテライト

我が国十何万の精神病患者は実にこの病を受けたるの不幸の外に、この国に生れたるの不幸を重ねるものというべし。精神病患者の救済・保護は実に人道問題にして、我が国目下の急務と謂はざるべからず。

呉秀三